

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	介護計画書の見直しは定期的に行っている。日々の取り組みが計画書通りに実行されているか、利用者の心身状況の変化に応じてケアできるようにモニタリングしていき、計画書に反映させていく必要がある。	介護計画書に沿ったケアの実践を記録できるような書式、記録方法を確立する。3ヶ月に1回はモニタリングを行う。	計画書に沿ったケアの実践経過を記録できる書式の作成。職員全員で、自分たちの記録しやすい形、継続していける形のもの考える。状態に変化が無くても、3ヶ月に1回は利用者全員のモニタリングが出来るよう、会議の機会を設ける。	6ヶ月
2	10	家族面会時や、家族会、運営推進会議などの場で、家族から意見や要望を聞くことはあるが、記録として残せていない。	今後の運営やサービス向上のため、家族や第三者からの意見や要望を、記録として残し、職員全員で確認し話し合いの場を設ける。	家族や第三者の意見を、職員が聞いた際に記録する様式と、誰でも記入できるような意見箱の設置を行う。	6ヶ月
3	6	身体拘束に関して、内部研修ではあるが定期的に研修の機会をもち、職員全員で拘束について考えている。日常的に拘束をしないケアが継続して実践できるよう取り組む必要がある。	グループホームにおいての拘束をしないケアとは何か、それを実践するための工夫を考える。	定期的なミーティングでの話し合いを重ねる。日頃から気付いたことを、職員同士が話し合っ、拘束をしないケアの工夫に取り組む。	12ヶ月
4	11	定期的に職員と管理者が面談を行い、業務に関してのことや個人的な意見や要望を聞くことはあるが、グループホームの運営に関しての意見を聞く機会が少ない。	職員からの運営に関する意見や要望を記録として残す。	職員に運営についてもっと関心を持ってもらうように管理者から、運営についての説明や相談を持ちかけるように努める。運営についての意見をまとめる様式を作る。	12ヶ月
5	4	運営推進会議構成メンバーに、知見を有する人の参加を検討する。	運営推進会議構成メンバーに、グループホームまたは認知症に関して知見を有する人をおき、会議のさらなる充実を図る。	地域の人、地域の事業所等でグループホームの取り組みや認知症に関して知見のある人に、運営推進会議の参加メンバーとしてお願いする。	6ヶ月
6	40	食事については献立を作る際、利用者の好きなもの、食べたいものを聞き、反映できるようにしているが、出来るだけたくさんの利用者の要望が反映できるように献立を考える必要がある。	定期的に利用者または家族に食事アンケートをとり、利用者の好きなもの、食べたいものを献立に盛り込む。	グループホームで料理をする際は、利用者と一緒に献立を考える。利用者または家族に月1回食事アンケートを実施し、併設の厨房から出される料理についても、栄養士と相談して利用者の意見が反映されるように働きかけていく。	6ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。